隠れてしまった進路を探せ！
～個別最適な進路講演会サービス～

文科一類2年 曲尾渉　理科二類2年 畑悠貴

1. 問題意識

原体験
地方の中堅校にて、医学部を目指す男子と同程度の学力があるにも関わらず、医師ではなく看護師を目指す女子学生が多かった。実際、日本全体で見ても男性看護師の割合は7.8%と非常に低い。（厚労省, 2018）
→背景にジェンダーロールの固定があるのではないか

より一般的な課題感
周囲の環境の制約から、進路の選択肢が狭まってしまう事例はさまざまな場面で見られる。
例えば地元就職を目指す学生は視野が狭い傾向にあることや、就職先地域について親の影響を受ける傾向が女子学生の場合特に顕著であることなどが指摘されている。（労働政策研究・研究機構, 2015）
また、通う学校が進学系か非進学系かで学生の職業キャリア選択に心理社会的な影響が生じると指摘する研究もある（溝上慎一, 2020）

2. 解決の糸口

もし現場でやりがいを感じながら働いている地方中堅校の出身者、つまり類似したバックグラウンドを共有している人で、女性の医師や男性の看護師がロールモデルとして提示されれば、男子も女子も将来の選択肢が広がったかもしれない。
→かつて同じ境遇にいたロールモデルの話は、身近な印象を与え自分事として捉えやすく学生の心に響きやすいのではないか、という仮説に基づく。

男女の医師・看護師の問題に限らず、自分に置き換えて考えられるような、類似したバックグラウンドをもつ少数のロールモデルの実体験を聞くことで、将来のキャリアの選択が広がり、よりよい進路選択が可能になると考え、今回のアイデアを考案した。

3. アイデア

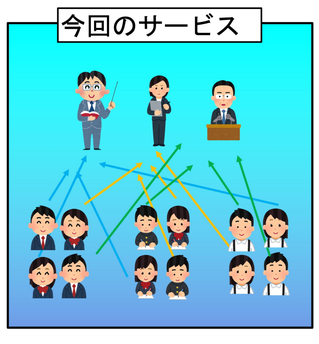
仕組み

オンラインで進路講演を全国配信
地域や教育環境の制約に関わらず、
学校の枠組みを超えて
各生徒の現状や興味に合わせた
個別最適な講演を提供

従来の場合…

学校ごとに講師が決まり、個人の興味や現状に合った内容でない場合も、、、

今回のサービス



講師と個々の学生のマッチングにより、
よりパーソナライズされた
進路講演会が可能に!

中高生が踏む手順

導入　学校の進路指導の授業にて、アプリを導入

↓

入力　各生徒が自分の属性や考え方、興味関心に関する質問の回答を入力

↓

診断　各生徒の回答に応じて、おすすめのオンライン講演をいくつか提示

↓

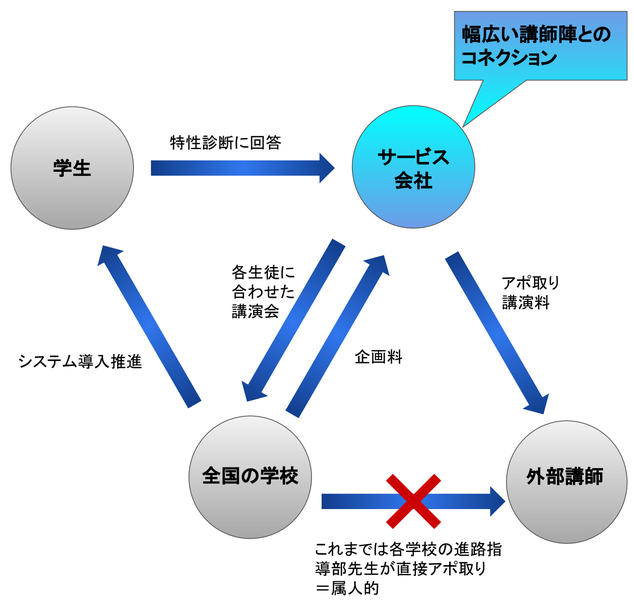
選択　提示された講演の中から特に聞きたいと思った講演を生徒が選択

↓

聴講　オンライン講演を聞く

講演者がかつて同じ境遇にあったという事実から、生徒はより共感が湧き、講演者の話が心に響き、
進路に対する意識が変わる
今まで考えたことのなかった可能性が開かれる
新たな職業や学部専攻に興味を持ち始める
など

学校・講師との連携



各アクターにとってのメリット

学校にとってのメリット
生徒の多様な進路選択を応援できる
進路指導に関わる業務負荷の削減・効率化

講師陣にとってのメリット
自分の話にもともと興味を持ってくれている、あるいは
自分と出発点を共有しているがゆえに話が響きやすい
学生を相手に講演ができる

4. カスタマージャーニー

医学部に合格できる学力があるにも関わらず、身近なところに女性医師がいなかったり、親から看護師を勧められたりした結果、医学部ではなく看護学校を志している地方中堅校の女子学生。
→似た環境の地方中堅校出身で医師として活躍する女性の講演を聞くことで、女子学生にとって、看護師だけでなく、医師という選択肢もより現実味を帯びるようになる。
→両方の選択肢を持った上でよりよい進路選択が可能になる。

5. その後の展望

固定的なジェンダーロール観のみならず、周囲にロールモデルがいないがために、学生の進路選択の幅が狭められてしまっている例は他にもある。

例えば、都心・地方でそれぞれ進路の選択肢が限定されていたり、家庭環境や通っている学校の環境によって進路選択が制約を受けたりする可能性。

→個別最適な講演会による新たなロールモデルの提示によって、周囲の環境に制約されがちな学生の視野を広げ、より公平な進路選択の機会を実現できる。

参考文献
厚生労働省 2018年衛生行政報告例（就業医療関係者）の概況
労働政策研究・研修機構(2015).若者の地域移動――長期的動向とマッチング〝の変化―― JILPT 資料シリーズ, No.162.
溝上慎一, 2020,「地方在住の高校生のアイデンティティホライズン：心理社会的影響を考慮したアイデンティティ研究」『青年心理学研究』pp.1-15